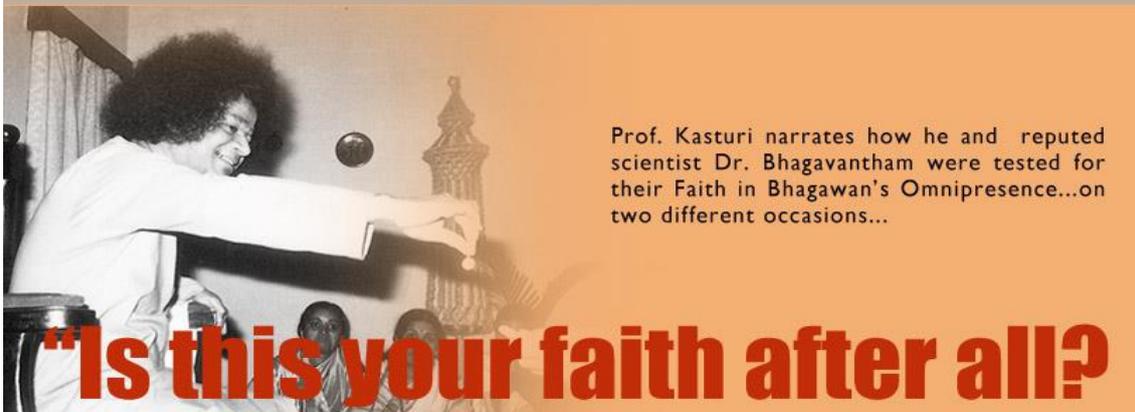


From Kasturi's Pen



Prof. Kasturi narrates how he and reputed scientist Dr. Bhagavantham were tested for their Faith in Bhagawan's Omnipresence...on two different occasions...

"Is this your faith after all?"

He has His Hands everywhere; He has His Feet everywhere...

結局、それがあなたの信仰ですか？

私たちは、神の詩『バガヴァッド ギター』の中にある「サルヴァタツ パーニパーダム(神の手足は至るところにある)」という言葉を受け入れてはいますが、絶対的な信仰を持っているわけではありません。至高の教師であるバガヴァンは、帰依者たちにより強い信仰を吹き込むため、しばしば神の遍在をお示しになって世の人々を啞然とさせ、適切なタイミングで適切な一服の薬をお与えになります。ほかならぬ N.カストゥーリ教授(バガヴァン・シュリ・サティア・サイの有名な選ばれた伝記作家)の談話をお読みください。そこには、2つの異なる出来事の中で、カストゥーリ教授とバガヴァンタム博士(著名な科学者)のお2人が、バガヴァンの遍在に対する信仰をテストされた詳細が記されています。

かつて、ダシャラー祭[母なる原理を祝う10日間の祭]の期間中、スワミはご講話をなさる前に私にスピーチをするようおっしゃり、私は自分なりの熱烈なやり方で「サルヴァタツパーニパーダム」に関するスピーチを始めました。私は言いました。

「スワミの御足は至るところにあります。スワミはマンガロールのディクシットという人に、『12月にあなたの家に行きます』とおっしゃいました。ディクシット氏は、『どの12月ですか？』と尋ねました。スワミは、『今年の12月です』とおっしゃいました。そして日にちをディクシット氏に伝えられました。

その日が来ましたが、ディクシット氏は家におらず、女性たちが食事をしていました。ドアをノックする音が聞こえました。『ディクシット、ディクシット』それはスワミの声でした。女性たちは食べるのをやめて立ち上がり、急いで玄関の方に走ってドアを開けました。スワミはいらっしゃいませんでした。しかし、そこには一続きの足跡があったのです。ヴィブーティの中で、右足と左足が、ドアの外側から礼拝室まで続いていました。見に来た帰依者たちが、足跡のヴィブーティを“プラサード”として持ち去りました。たった1つだけ残っていた足跡があったのですが、その足跡のヴィブーティは増え始めました。2センチの厚さまで増えた後、ヴィブーティの増加は止まりました。その家は巡礼の地となりました。ですから、スワミの御足は至るところにあるのです」

私はこう言い終えて、幸せな気持ちで席に着きました。

次にスワミがお話しになり、私に関して次のようにおっしゃいました。「この人が何か言っていますが、彼の言うことを信じてはなりません。彼は私の足が至るところにあると言っていますが、私がホワイトフィールドやどこか他の場所に行って1週間ほど滞在すると、この人は私に手紙を書いてきて、「スワミ！ 私はいつ、あなたの御足を優しく撫でたり、マッサージしたりして、あなたの御足の下にいられるのでしょうか？」と言ってくるのです。なぜですか？ 私の足を優しく撫でたり、マッサージしたりしたい時は、いつ、どこにいても彼はそうできます。なぜなら、私の足は至るところにあるからです！ しかし、この人は私の足をこの2本の足だと思い込んでいます。ですから、彼は自分の言っていることを信じていないのです」

カストゥーリ ジはさらに続けてこう書いています。

「神は“サークシ”——照覧者——です。神の目は、いつもあなたを見ていることを常に忘れてはなりません。スワミは“サークシ”です。スワミはすべてを見ていらっしゃいます。スワミは皆さんに『私は知っています。私は知っています』とおっしゃいます。スワミは知っていて、見ていて、警告なさいます。世界中でそれができるのはスワミだけです。スワミの目は私たちをご覧になっており、警告し、気づかせ、指示し、導き、守ってくださるのです」

「それから、“ニヴァーサ”、すなわち住居です。私たちはスワミの中に住んでおり、スワミは私たちの中に住んでいらっしゃいます。スワミはニヴァーサです。それゆえ、スワミはヴァースデーヴァ[遍在の神]と呼ばれています。スワミの目から逃れることはできません。

ティーデマン・ヨハンソンというあるノルウェー人造船技師がいました。彼は海外から汽船で入ってくる穀物をポンプで海岸に降ろし、ワゴンに積み込むことのできる特別な機材を持っていました。ヨハンソンはインドにいて、のちにその同じ機材をバングラデシュのチッタゴンの港に設置するため、スワミの許可を得てチッタゴンに向かいました。ヨハンソン

はホワイトフィールドにやって来て、スワミを取り囲む大勢の人々を見て、隅の方に入り込み、静かに座っていました。スワミはヨハンソンに気付いて、彼の方へ来てお尋ねになりました。「指輪はどうしましたか？」

スワミは以前、ヨハンソンに指輪を与えられたのですが、彼の指は空っぽでした。ヨハンソンは言いました。「スワミ！ 私は蒸気船からロープの上にはずると滑り落ちてしまい、指輪は外れ、チッタゴン河の中に落ちてしまいました」。スワミは「パーパム[不幸]、かわいそうな男だ」とおっしゃり、手をくるくる回して指輪を物質化なさいました。

私は「それは同じ指輪ですか、スワミ？」と尋ねてみたくなりました。誰もがその質問の答えを知りたがっていました。しかし、あえて誰もそれを尋ねようとはしませんでした。

インド国防省の元科学顧問であり、2つの大学の元副学長でもあるバガヴァンタム博士は、科学的な好奇心を抑えることができなくなり、尋ねました。

「それは同じ指輪ですか、スワミ？」 スワミはやや腹立たしげにバガヴァンタム博士をごらんになり、「“イエデナ ニー ナマカム？” 結局、それがあなたの信仰ですか？ 指輪は私の手の中に落ちてきました。私はその河の中にいました！」とおっしゃいました。

いったい誰が、「“サルヴァタツ パーニパーダム” 神は至るところに手足を持っている」と言えるのか考えてみてください。私たちはその言葉を『バガヴァッド・ギーター』の中で読み、くり返し唱えています。しかし、それを信じてはいません。

それゆえ、神は私たちが信じさせるため、再びこの地上に降臨なされたのです。

サマスタローカーハ スキノー バヴァントウ
みんな幸せになりますように

出典:

<http://theprasanthereporter.org/2013/02/is-this-your-faith-after-all/>